

# 「真実な礼拝」

～その恵みを知れるわれに～

ヨハネ 4:20～25 4:31～39 12:1～5

天地万物が造られ、すべてのものが自らの姿を保とうとしています。神様は、人間が人間を保ち、その役割を果たし、存在の意義を元に戻すために、私たちに礼拝を与えました。神様はアダムとイブを創造した時「我々に似るよう人間を造ろう。」と言われました。神様と直接繋がる霊の存在です。あなたは神様によって再創造されたのです。しかし壊れた社会で生きていくと、神様と人間との関係が壊れ、人間と人間との関係が壊れてしまいます。神様と人間との関係がよくなれば、神様の愛と光と恵みが合わさって人々に癒しと回復をもたらす、人間と人間との関係もよくなるのです。これは正比例するのです。聖歌「輝く日を仰ぐ時」のように、神様が造った転地万物を眺め、神様の存在を感じましょう。

## ■ ヨハネの福音書 4章20～25節

ヨハネの福音書で、サマリアの女がイエス様とのやりとりの中で、礼拝のスタイルを見出していきます。サマリアの女は、たくさんの罪を犯し、傷つき、四人もの夫と別れるというつらい過去を持ち、苦しみの中で生活をしていました。現在一緒にいる男性も夫ではない男性でした。だからこそ人目を避けてわざわざ真昼に水を汲みに行っていたサマリアの女に、イエス様は「水をください。」と声を掛けられます。サマリアの女は、今まで差別してきたユダヤ人がなぜ私に頼むのかと聞くと、「私がどんなものか知っていたらあなたの方からそれをしてでしょう。」と言われ、さらに自分がどんなものか言い当てられました。「あなたは預言者だと思います。」と答えます。この会話をきっかけに彼女の心に何か戻ってきて、すっかり忘れていた礼拝のことを思い出したのです。神様はあなたの人生に出会って、あなたに礼拝を思い起こさせたのです。神様はあなたの人生を回復させるために命を懸けて十字架にかかったのです。教会に行くというのは、的を外したものを戻すわけですから、問題や不一致が起きることがあります。しかしそれは学校で擦りむいてけがして病院に行くようなものです。教会に行くということは痛いこともあります、それは傷つけるために痛いのではなく、治るために痛いのです。

## ■ 真実の礼拝がすべてを変えていく

～真の礼拝とは知って礼拝することである～

礼拝に来るのは神様の前に回復されるためです。神様は必ず究極的な解決を持ってあなたの人生を必ず回復します。聖書では、サマリアの女に「乾かない水が私にはある。」と教えたが、その話と同じことが、弟子たちの間でも起きました。弟子たちがパンを村に買いに行つて帰ってきたらイエス様が「私には違う食物がある。」と言いました。すると弟子たちは食物の意味が分からず「誰かが持ってきたのか。」と言いました。また、ニコデモは、イエス様に「人は新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない。」と言われると、「人は年をとってから生まれることがどうしてできますか。もう一度母の胎に入れということですか。」などと、とんちんかんな質問をしました。彼らの目線は、神様のことをこの世の常識でしかみていなかったのです。私たちも礼拝をその程度にしかみておらず、私たちが生きてきたこととみ言葉を照らし合わせて、今週はこう生きようと思っているのです。ところが神様は、あなたの魂を生き返らせ、あなたの霊が神様と繋がるとすべての必要を満たすと言ったのです。聖書は、私たちがどうやって生きるかの説明書です。それが霊と真をもって礼拝するように言われています。礼拝があなたが祝福される秘訣だからです。そしてその礼拝を知ってやりなさいと伝えていきます。あなたは礼拝の前にもそのような思いで来ますか。ローマ書12章1～5節にもあるように、聖なる生きた供え物としてあなたはこの場所に来ていますか。神様は「私の前においで。」と言われていました。それは礼拝に出ることです。礼拝はそういうものだと知って来ますか。人は神様に向くとその覆いは取り除かれます。神様は賛美の中で必ず最善なときに現れて、完璧に究極的に作用して奇跡をもたらします。ですから私たちは神様に向かって手をあげて歌うのです。神様はあなたの賛美を待っているのです。この世の素晴らしい人たちは謙遜します。神様は「我々に似る

ように」人間を造りました。イエス様は、この世の豊かな知者のために来たものではありません。最低の所で生まれ、最低のように生きて、最低の人に出会って、最低を癒しました。あなたが礼拝で手を上げて賛美し神様との関係が回復されることで、あなたがあなたになることを神様は知っているのです。神様が願っているのは、あなたが喜んでいることであり、あなたが愛されていることを知っていることなのです。あなたが礼拝を尊ばなければ、礼拝に来る意味がありません。どれだけあなたが愛されて、神様がどれだけあなたのためにしているかを理解すれば、その恵みを早く受けて与えようとするのです。礼拝を備えてください。私たちは魂の管理者であって、私たちの魂を見張らなければなりません。神様を感じ、神様が礼拝でしようとしている奇跡を備えて受け取りに来ないとなりません。神様は、礼拝を守ることと十一献金をすることがどれだけ祝福かを聖書の中で約束しています。あなたの心を見たいのです。神様との関係が近ければ、悪魔は妨害することはできません。だから礼拝を尊べ、あなたの心を私に返せと言っています。週に一度私のところに帰ってきてメンテナンスしなさいと言っています。礼拝に来るのに心を騒がせてこないで下さい。心が整えられと外側も整ってきます。自らが尊い存在であることを忘れられないで下さい。

## ■ 救いをもたらす鍵は礼拝により開かれる

「あなたは私をだれだと思いませんか。」という問いに、ペテロは「あなたは生ける神の御子キリストです。」と答えます。するとイエス様は「あなたはペテロです。私はこの岩の上に教会を建てます。ハデスもそれには打ち勝たない。もしあなたが地上でつながらな天でもつながれ、あなたが地上で解くなら天でも解かれるだろう。」と言われました。あなたに鍵を持っているが、持っているだけでは開きません。門はイエス様です。狭い門から入りなさいと言われていました。頭を下げて礼拝をする姿、「あなたは生ける神の御子キリストです。」と言った姿です。礼拝を尊ばなければなりません。イエス様がいたら、あなたをよとされるでしょうか。ファリサイ人のように扱われないでしょうか。

## ■ 主よ聞かせてください

なくて聞こえないのではない  
聞こえなくて無いのである

イスラエルが建国されて70年を迎えようとしています。バビロン捕囚にあって彼らは世界に散らされましたが、神様は「集められるときが来る」と預言しました。現在イスラエルには1000万人の人がいます。神様が約束されたことは必ず起きるのです。ロシアも最初は帰さないと言っていたが、チェルノブイリの原発事故により、ユダヤ人をイスラエルに帰すことになりました。エチオピアも軍のクーデターにより、同じことが起こりました。神様は聖書で言われたことを完璧にするのです。みなさんの人生を見ても同じです。クリスチャンは礼拝で神様が伝えたいことを感じなければなりません。だからこそ私たちは心を整えて礼拝に来なければなりません。神様はあなたの人生を変えるためにこの時間を尊べと言われたのです。心を静めて聴かないと神様のメッセージは分からないのです。人生に悩んでいたサマリアの女だけは、礼拝しなければならぬことを思い出しました。するとイエス様は「この山でもエルサレムでもない場所で礼拝をする時が来る。」と言ったのです。私たちは祈らなければなりません。「わたしをあなたの平和の道具としてください。」と。弟子たちもニコデモも分からなかったが、人生を悔やんでいたサマリアの女だけがイエス様の言われたことが少し分かったのです。神の目を見て話をしなければなりません。すると何が間違っているか礼拝の中で示され、あなたの人生に奇跡が起こるのです。あなたが礼拝をすることを止めてはいけません。この礼拝があなたに神様が願うことであり、あなたを造りかえることであり、聴くによるのです。礼拝を尊ぶことは、神様とあなたとの約束だからです。

(要約者:浅野 恵子)

(2018年11月11日)